

矢沢振興センター及び矢沢地区社会体育館 当面の間休館！

【利用停止期間】 令和4年1月24日（月）～ 当面の間

花巻市では、新型コロナウイルス（オミクロン株）感染の拡大が収まらないことから、施設利用のガイドラインは1月24日から当面の間、レベル4を継続としています。

このため、矢沢振興センター及び矢沢地区社会体育館は休館の継続となっています。

利用者の皆様には大変ご迷惑をおかけしておりますが、感染拡大防止のため、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

花巻市のレベル4（休館）への目安

岩手中部圏内（花巻市を含む）における、直近1週間の対人口10万人あたりの新規感染者数が25人を超えた場合。または岩手県が「緊急事態宣言」もしくは「まん延防止等重点措置区域」に指定された場合。

● 様々な事業は中止や延期などの変更がなされています！

新型コロナウイルスの感染者数は当初の予想をはるかに上回る？勢いで拡大しており、市による施設利用レベルの変更は見通せない状況となっています。

このため2月から3月にかけて予定していた矢沢地域振興会や各種団体による事業等は現在のところ下記のとおり変更となっていますのでお知らせいたします。

【中止事業】

- 交通安全祈願祭：2月17日（木）14時開催予定の交通安全祈願祭は残念ながら中止いたします。各団体様には、引続き交通安全への取組にご協力をお願いいたします。
- ニュースポーツ大会：3月上旬の開催を目論んでおりましたが、今年度も中止いたします。残念ですがご了解願います。

【検討事業】

- 明老大学閉講式：2月25日（金）開催予定の明老大学は順延とし、感染状況（レベルの変更）を見て、3月に閉講式のみ開催を模索したいと考えています。開催の有無については、各老人クラブの会長さんへ連絡し、また「やまぼうし」でもお知らせいたします。

※ 新型コロナウイルス感染状況の変化に伴う施設利用を含めた事業の開催有無等については、関係者に随時お知らせしますので、よろしくお願いいたします。



昨年度の明老大学の閉講式
（令和3年2月18日）の一コマ

❖ 「矢沢の宝誕生お祝」 ❖

矢沢地域振興会では、「子どもは矢沢の宝」のもとに、新生児へのプレゼント事業を継続しています。昨年以降にお生まれの赤ちゃんで、まだお申し込みでない方はぜひご連絡ください。

お待ちしております！

矢沢振興センター

(☎ : 23-2171)



春はそこまで！



赤ちゃんの笑顔が一番

移動図書館車巡回日程(ぎんが号)

3/2 (水)	団地会館	13 : 30 ~ 13 : 50
3/9 (水)	高木観音	09 : 20 ~ 09 : 50
3/9 (水)	振興センター	10 : 05 ~ 10 : 35
3/9 (水)	やさわこども園	10 : 50 ~ 11 : 20

🌸 春の全国火災予防運動

【3月1日(火)~7日(月)】

今年の冬は昨年同様に寒さが厳しい事もあり(ちなみに花巻の1月の平均気温 -2.7°C (偏差 -0.9°C))、全国的に住宅火災による死亡報道が多く目に飛び込みます。

消防庁によりますと、全国の令和2年中の住宅火災の死者数は809人と全ての火災死者数1,326人の約7割に該当します。

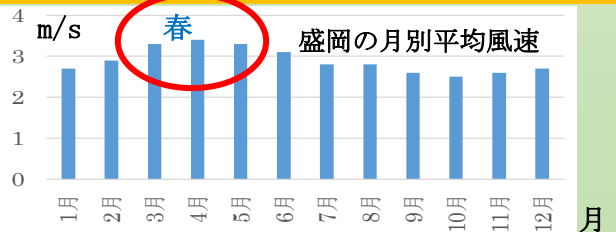
消防庁では令和3年度の全国統一防火標語を「**おうち時間 家族で点検 火の始末**」として全国火災予防運動に取り組みます。

これから春にかけて風が一番強い時期です。

林野火災を含め火の始末に **ご用心!**

花巻空港における春(3-5月)の強風

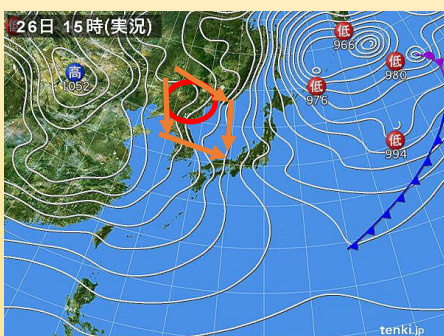
- ・日最大風速：令和3年4月13日 南 16.0m/s
(統計：平成15年以降年間第3位)
- ・日最大瞬間風速：平成25年3月10日 西 24.7m/s
(統計：平成21年以降年間第4位)



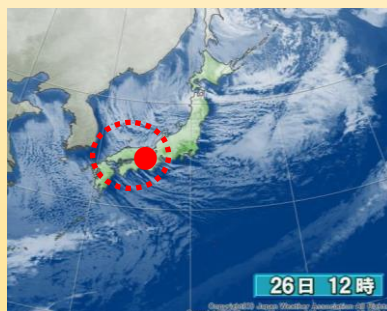
【事務局員のつぶやき】(日本海寒帯気団収束帯(JPCZ)とは?)

東日本や西日本の日本海側の平野部でも大雪となることがあります。そんな時、ラジオやテレビのお天気キャスターから日本海寒帯気団収束帯(JPCZ)という聞き慣れない言葉が流れてきます。気象用語ではJPCZは「冬に日本海で、寒気の吹き出しに伴って形成される。水平スケールが1,000 km程度の収束帯。この収束帯に伴う帯状の雲域を「帯状雲」と呼ぶ。強い冬型の気圧配置や上空の寒気が流れ込む時に、この収束帯付近で対流雲が組織的に発達し、本州日本海側の地域が局地的に大雪となることがある。Japan sea Polar air mass Convergence Zone」と記載されています。冬の季節風については何回かお話していますが、JPCZの場合、冬型の気圧配置で発生した冷たい北又は北西の気流が北朝鮮の長白山脈中の最高峰白頭山(はくとうさん 2,744m)で北と南に分流し、風下の日本海で再び合流することによって収束帯が出来ます。この収束帯上に小擾乱が発生し次々に雪雲が同じ位置に流れ込み局地的な大雪をもたらします。夏の線状降水帯を思い浮かべてください。同じような状況が冬にも発生しています。

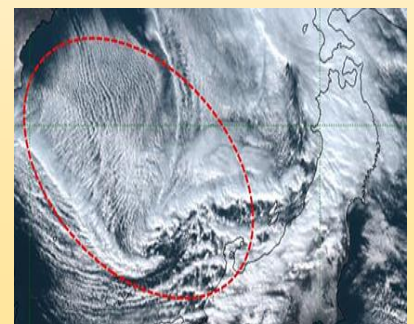
昨年の12月26日から27日にかけて京都府の日本海側に面する舞鶴市では二日間で71 cmの降雪(12月26日の日降雪51 cm)の大雪となりました。この日の天気図から見るとおり日本付近の等圧線は縦縞模様で日本海西部に収束帯が見られます。(下図はいずれも気象庁提供)



令和3年12月26日15時 地上天気図



令和3年12月26日12時
気象衛星赤外線雲画像



冬型の気圧配置時の典型的な収束帯による雪雲の事例